

1. 落合こども園の教育保育目標

<p>〈保育理念〉 生きる力に向けて園児の望ましい育ちを支える</p> <p>〈教育目標〉 心豊かで、人と楽しくかかわりながら、主体的にたくましく生活する子どもの育成</p> <p>〈目指すこども像〉 ○元気な子ども ○考える子ども ○仲良くする子ども ○感性豊かな子ども</p> <p>〈目指すこども園像〉 ○安心安定した情緒と落ち着いた教育保育環境の中で、心豊かに健やかに育つこども園 ○保護者や地域に信頼され、愛されるこども園 ○安心安全な親と子どもの育ちの場としてのこども園</p>

2. 本年度の重点目標（課題）

<p>(1) 心豊かで、人とかかわりながら、主体的にたくましく生活する子どもの育成</p> <p>1、心豊かな子どもの育成</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもの気持ちや考えていることを汲み取り、ありのままの姿を受け止めることで、安心して自分の気持ちを表すことができる子どもを育成する。・子どもが安心して過ごし、ありのままの自分が出せるよう信頼関係を培う。・絵本の読み聞かせを通して想像力や豊かな感性を培う。・自然とのかかわりの中で五感を通して感じ、発見した喜びや好奇心を培う。・子どもの育ちに合わせた食育を通して楽しく食べ、友達とおいしさを共感し合う心を育む。・子どもの興味関心に沿った環境構成を行い、夢中になって遊び込める子どもを育成する。 <p>2、人とかかわることを楽しむ子どもの育成</p> <ul style="list-style-type: none">・保育教諭や友達との信頼関係のもと、模倣遊びやごっこ遊びを楽しみ、友達同士のかかわりを広げる。・友達と一緒にのびのびと活動し、身近な人や環境に意欲的にかかわり、互いに認め合いながら遊びを楽しみ協力し合ってやり遂げようとする子どもを育てる。・安定した信頼関係のもと、友達の心が沈んだ時でも共感し合える子どもの育成を行う。・異年齢同士の交流を通して、互いに親しみを感じ年齢を超えて学び合い、相手への憧れや思いやりの心を育てる。
--

3、主体的にたくましく生活する子どもの育成

- ・遊びの中で、試行錯誤を重ね、できた時の達成感が感じられるよう、根気よく見守り共感することで主体的に遊ぶ子どもを育てる。
- ・一人一人の子どもの発達段階や家庭環境などを考慮し職員間で共通理解を行い、安心して心身共に健康に過ごせるようにする。
- ・根気よく年齢に応じた援助を行うことで、基本的な生活習慣が身につくようにする。
- ・しっかり運動し、給食を楽しみにし、喜んで食べる子どもを育てる。
- ・基本的な生活習慣や集団生活における態度が身につく、見通しをもって生活しようとする子どもを育てる。

(2) 小学校への接続と学びの連続性について

- ・互いにねらいを持った交流活動が行えるよう、事前事後の協議やカリキュラムを共有し合い、5歳児が入学を楽しみにできるように、なめらかな接続を行う。
- ・5歳児のみにとどまらず、他年齢にも情報発信を行い子どもの育ちを共有し合う。
- ・「幼児期までに育てほしい10の姿」を意識しながら、各年齢なりの育ちを積み重ねていく。

(3) 信頼されるこども園づくり

1、開かれたこども園づくり

- ・保護者が相談しやすい雰囲気づくりを行い、保護者の思いに寄り添う。
- ・希望があれば、いつでも相談会や懇談を行う。
- ・園開放を行い、地域の子育て支援を行う。
- ・地域の人との交流を行い、園に親しみをもってもらう。

2、人権意識の向上

- ・園児や保護者に対して、また、職員同士においても、常に人権を意識した言動や態度を意識する。
- ・子どもや保護者の国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てる。

3、安心安全なこども園づくり

- ・危機管理意識を持ち、安全指導の充実を行う。

(火災避難訓練・交通安全指導・災害訓練・引き渡し訓練・不審者訓練)

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価	学校評議員評価
教育保育課程・指導計画	全体的な計画に基づき、年齢に応じた指導計画を立てて保育した。毎月振り返りを行い翌月の保育に生かした。	3	3
行事	コロナ禍でできていなかった行事（夕涼み会、親子バス遠足等）を行うことができた。生活発表会を園で行うことで園児への負担軽減になった。	3	3
組織・運営	朝礼や報告会を毎日行い情報連携に努め共有し合い、協力し合って園運営を行った。	3	3

学級経営	一人一人を受容し、丁寧な教育保育に努めてきた。個々の発達段階に添ったクラス運営を行い園児の成長も見られた。	3	4
特別支援教育	外部関係機関と連携しながら進めた。就学に向け小学校連携もいつも以上に行った。	3	3
安全管理・保健指導	不審者避難訓練・災害訓練は園児参加で行い、また地域防災訓練に初めて5歳児が参加するなど防災意識を高めた。毎月の安全点検を行い、年齢に応じた衛生面の配慮を行っている。	3	3
研修（資質向上）	園内研修は計画通り行ったが、研修の時間を確保することが非常に難しかった。来年度は今以上に職員が研修に参加できるよう計画していきたい。	3	3
情報提供・保護者・地域との連携	保護者へはコドモンで遊びや行事の様子を写真配信した。お便り等はわかりやすい文章表現に努めたが今後も改善していきたい。	3	3
小学校との接続・連携	計画的に交流を行った。前もって職員同士顔を合わせて計画する事ができ有意義な交流となった。園児も入学への期待感・安心感も高まっている。	3	3
子育て支援	園開放を実施しているが、参加者が少なく残念である。保護者へはいつでも相談できるよう案内しているが少ない。	3	3
食育の推進（給食）	畑作り・収穫・調理体験をして野菜への関心を高めた。偏食の改善も見られ園児は給食を楽しみにしている。	3	3
食事の提供（調理）	安心安全な調理の徹底。食物アレルギー代替え食や離乳食、支援の必要な園児への盛り付けの工夫等の細やかな対応ができた。	3	4

4. 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

「1、心豊かな子どもの育成」において、学年別保育に加えて異年齢児保育に重点を置いて取り組み、異年齢児交流計画を立てて実践した。特に「キラキラタイム」と名付けた交流の場を度々持つことができ、年上児と年下児（3歳児未満児を含む）とが自然な形で交流し合うことができた。また、3歳未満児同士が関わりをもつ「キラキラタイムミニ」も取り入れ、様々な形で友達同士が関わり、人との関わりを中心とした「主体的にたくましく生活する子どもの育成」を目指してきた。育ってきた姿としては、年上児は年下児に対して愛情をもって接する様子が多く見られた。同年齢ではそのような姿は少なく異年齢児での関わりの中でこそ育ってきた部分である。また、事後には3上3未会議を持ち振り返りを行い、次の交流に生かすようにしている。園として継続的に取り組んでいることであり今後も継続していきたい。「2、小学校への接続」については、前年度よりも密に取り組むことができた。小学校教員に園の保育を度々見に来てもらったり、個々の園児に対して情報交換を行ったりすることができた。来年度も引き続き園からの発信を行いアプローチカリキュラムのもと職員同士が理解し合える場を持ち、子どもの育ちの共有をしていきたい。「3、信頼される園づくり」については保護者と園職員が信頼できる関係性が大切だと考える。保護者アンケートでは、職員と相談できるという項目にそう思わないが2%あり、今後は、全ての保護者が話したり相談したりしやすい園となるよう努力していきたい。また、園内研修でセルフチェックを行い保育教諭自身が自分の言動を振り返る機会も持ち人権意識向上を図っている。また、保護者アンケートの「園に総合的に満足している」の項目では、そう思わない、わからないが0%であり全員の保護者の方が好評価して下さっている事に感謝している。今後も、職員全員の共通理解を行い園児の成長を支えて行く保育を実践していきたい。

6. 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

- ・保護者との良好なコミュニケーションは子どもの育ちを支えていく上で不可欠と考えている。％は少ないが話しにくいと思っている保護者がいることは常に意識し、笑顔や明るい表情で話しをしたり、保護者の話を傾聴したりしてコミュニケーションを良好にもつよう今後も気を付けていきたい。また、園からの発信も重要である。コドモンを利用し保育の内容や園の保育の考え方を理解してもらえるようできるだけ多く発信できるようにしていきたい。また、わかりやすい文章発信ができるよう、保護者の発言や職員同士の意見を取り入れながら文章表現や形式等を改善をしていきたいと思う。
- ・園評議員からは給食において、離乳食・アレルギー食・刻み食・支援の必要な園児の盛り付けの工夫など評価していただいた。今後も、園児の様子に合わせた安心安全な給食提供を保育との連携をもちながら進めていきたい。
- ・職員の自己評価では、研修に行き自己研鑽をしたいという意見も多かった。できるだけ研修会に参加できるようにしたり、園内研修を行ったりしていきたい。園内研修では全員が参加できないことが課題であるが、参考になる資料を用意して会議に集まることができない職員にもわかりやすく伝えていきたい。また、普段の保育の話や園児の成長の話をする事が意識向上に繋がると考えるのでその時間も大切にしていきたい。
- ・行事に関しては、コロナ禍以前に戻すように徐々にできている。また、地域合同の災害訓練にも初めて参加することができた。これからも災害時を想定し継続していきたいと思う。今後は、地域の方との遊びの交流も取り入れていきたいと思う。
- ・保育の向上の為には、職員の働き方についても見直しが必要である。多くの園児が長時間保育を受ける現状であり、保育準備の為の時間がないことが課題であるが、行事や準備についての見直しや業務事務の簡略化や業務分担を行い、職員同士が気持ち良く協力し合い、少しでも時間のゆとりが生まれるような環境を作っていきたい。

学校評議員・園評価基準

評価	基準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である